

## 景観まちづくり情報シート(受託事業)

活動団体名	公益社団法人静岡県建築士会 景観整備機構
受託事業名	焼津・花沢の里づくりのための防災・観光・生活・景観等に関するまちづくり指針の作成
受託先	公益信託 大成建設自然・歴史環境基金
事業年度	平成 28 年度 (事業費：500 千円)

### 事業の概要

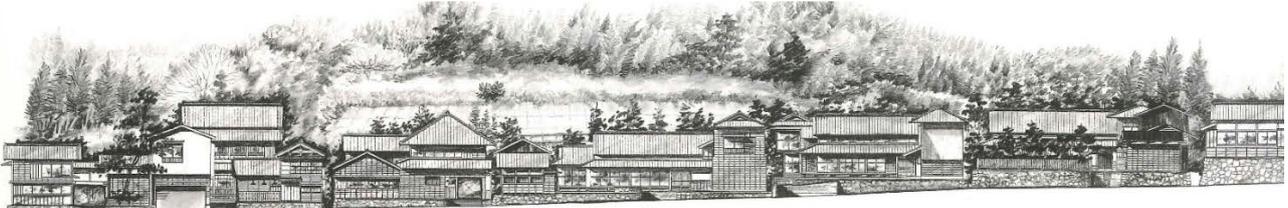
公益信託 大成建設自然・歴史環境基金に助成申請し、採択を受けて事業を実施した。

### 〇目的

焼津市花沢地区は 2014 年 9 月、静岡県で初めての重要伝統的建造物群保存地区（以下、伝建地区）に選定され、まだ間もない存在ではあるが、住民は“花沢の里”に誇りをもっていると同時に、いくつかの不安も抱えていることが明らかになった。一つは急傾斜地、土砂災害、火災等防災に対する不安であり、二つは伝建地区になり来訪者がますます増加し、それを活かそうとする動きと日常の生活が脅かされるのではという観光対生活の葛藤、そして三つは町並みを構成する付属屋は本来の機能がなくなり今後活用されなくなっていく恐れがあるため、町並みの変容が懸念されるという不安である。

これらの不安や課題のなかで、もっとも大切なことは住民がどのような“花沢の里”にしていきたいのか、ということである。言い換えれば、花沢の里の将来像が住民の中で共有できていないことである。

防災、観光、生活、景観等について、住民自らがどのように考え、どのように進め、どのような花沢の里を望むのか、住民自らが描く将来像を明らかにし、それらを住民みんなが共有していくことが求められる。



### 〇内容と方法

①全世帯アンケートの実施：花沢地区は、現在 28 世帯が暮らす小さな集落である。この全世帯を対象に、しかも 1 世帯複数の方にアンケートを実施し、花沢に住む方々の気持ち、意向を把握した。

②アンケート結果に基づくワークショップの開催：実施した全世帯アンケートの結果について、その内容を住民の方々に説明するとともに、住民の気持ちや思いをワークショップにより意見交換した。

③町並み修景のための事例集の作成：花沢の町並みを形成している建物は、石垣の上に並ぶミカンの栽培やお茶の栽培に使われていた付属屋である。母家は街道から後退した位置にあり、町並み景観の中には構成されていない。

町並み景観を構成する付属屋の外壁、下見板張りの仕様、かたち、色の現状を把握した (24 物件)。



A365 mm B165 mm C40 mm D28 mm

A450 mm B155 mm C60 mm D11 mm

A610 mm B205 mm C80 mm D14 mm

A435 mm B210 mm C40 mm D12 mm

(A 押え縁の間隔 B 下見板のタテ幅 C 押え縁のヨコ幅 D 押え縁の厚み)

下見板張りは一つとして同じものではなく、材の寸法がそれぞれ異なっていることが判明した。

④花沢の里づくりの方向性：全世帯アンケート、及びその結果に基づくワークショップによって、住民がこれからどのような花沢の里になっていくかを望んでいるのか、花沢の里の未来像について共通認識が持てる内容のものを協議した。